



さえずり

会長 根津 江美子
(十日町市立西小学校 教頭)

イメージをもつ大切さ

副会長 嶋見靖之

佐渡地区リコーダー教育研究会では、9月23日、リコーダー奏者で、本県や全日本リコーダーコンテストの審査員を務める太田光子先生を佐渡にお招きして講習会を開催いたしました。

講習会では、会員のモデル演奏に対する公開レッスンを行いました。ルイエのソナタイ短調、第1楽章では、24小節目を取り上げ、旋律に言葉を当てはめ、その言葉を語っているように演奏するよう演奏者に伝えました。この時は、「切なさをもつイメージの言葉」を考えさせました。そこで演奏者から出てきたのは「あんたー」（演歌に出てくるような）という言葉でした。その言葉を語るイメージで演奏すると、スラーの最初の音が長く深みをもってきたり、音型の繰り返しが相互に関連付いてフレーズ感が伝わるようになってきたりしました。音符という記号を音にするという段階から、音符を通して表現したい音楽を表現する段階に進化した瞬間でした。



イメージをもったり雰囲気や感情をつかんだりすることで、何を表現するのかという意志が生まれます。そして、その意志は演奏を生き生きしたものにします。生き生きした演奏、説得力のある演奏を課題とする私たちにとって示唆に富むアプローチになります。

次期学習指導要領では、児童・生徒が音楽的な見方・考え方を働かせることができる授業展開が求められます。音楽的な見方・考え方とは、「音楽に関する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などに関連付けること」と定義されています。イメージや感情をもたせることは、音楽的な見方・考え方を働かせる土台になります。音楽表現におけるイメージの大切さを太田先生の講習会で実感しました。

太田先生は、「私はリコーダー奏者で、リコーダーを吹くことはできても、それを子どもたちに伝える力は、先生方にはかなわないです。このように先生方と手を組み、協力させていただくことで、リコーダーを吹くことに楽しさ、素晴らしさをますます子どもたちにも、皆さんにも、さらに味わっていただくことができるんだなあ」と自身のブログで語っています。リコーダーの専門性と指導力の両方を高めていかななくては、と強く思いました。

(講習会の様子は佐渡リコ研のフェイスブックに掲載しています。また太田先生のブログも是非ご覧ください。)



リコーダーの息づかい 第6回

～ 佐渡地区リコーダー教育研究会リコーダー講習会を振り返って、これまでのおさらい ～

リコーダー奏者 太田光子

新潟県リコーダー教育研究会の皆さま、こんにちは。リコーダー奏者の太田光子です。

先日9月23日に、佐渡地区リコーダー教育研究会のリコーダー講習会に行きまいりました。本誌をご覧の皆さま同様、ご自身がリコーダー愛好家でいらして、リコーダーが大好きだからこそ熱心にリコーダー教育をされている先生方や生徒さんに囲まれ、とても楽しいひと時でした。

そこで今回は、前回、第5回のおさらいを、佐渡リコの皆さまに行った講習の様子を交えて、お伝えいたします。

講習会の前半はこちらの連載でお話ししている息のトレーニングについての実践をいたしました。お読みくださっている方々も幾人もいらっしゃいましたが、文章でお伝えすることの難しさを改めて実感いたしました。そこで今回はまず、文章で説明し切れなかったな、と思ったところをおさらいしていきたいと思います。



前号(H-29-1号)のトレーニングA(息の出し入れ)に関して。

- (1) 歯を閉じ、上の歯茎に舌を近づけ、声は出さずに思い切って強く「スッ！」と言い、直後に息を吸って戻します。「スッ！」は、内緒話での「す」と同じ音です。そして息を出した瞬間、おなか周りに力が入り、動けばOKです。

前号で上記の説明をしましたが、佐渡リコの皆さまの中にも、かなり軽く、あるいはゆっくり「すー」っていう感じの方が多かったです。

背筋を伸ばして椅子に座り、手を腰(→腰の上の脇腹)に当て、「フンっ！」と踏ん張る時のように思い切り強く「スッ！」と言ってみましょう。手を当てたところ(横腹や正面・背面)がハッキリと動きます。

おなかを自分で動かすというよりは、「スッ！」と強く言った反射で、**瞬間的に動く**感じですよ。

- (2) 次の「スッスッスッ！」を2分間連続してやってみましょう(メトロノーム目盛60に合わせて3連符)では、続けていく内にだんだん弱くなったり、かなり大変であるため続けてできなくなってきたりして、佐渡リコの皆さんの中にも、肩や上半身など別の部分を動かすことで、息を押し出している方が多かったです。**テンポが遅くなくても構わないので、(1)のとても強い「スッ！」で続けます。**

佐渡リコの皆さまにも2分間続けてやっていただきました。どうしても途中で弱くなりがちなので、ちゃんとできているか一人一人確認して回ったり、励ましたり…。この2分間が終わると一斉に、「はあ～」とバテていらっしゃいました。そう、**それでOK**です。**初めて行なう時は、それほど大変**ですよ。

でも、慣れればできるようになりますから、ぜひ挑戦してみてください。
トレーニングはこれで終わりではなく、これができたらその**次の段階がありますので、まずはここをクリア**しましょう。

また、「虹」が分からない、というご質問もいただきました（H27-3号、H28-2号図2参照）。そうですね。いきなり「音が虹になって客席に伸びる♪」などとメルヘンチックなこと言われても（笑）。具体的に何をどうしたらいいのやら分からない、というお気持ちも良く分かります。

前々号で、私が思う「リコーダーが鳴っている音」を、【**安定した響きと深さを感じさせる、透明で澄んだ伸びのある音**】と定義しました。その中の「伸びのある音」が私にとって「虹」なのだと思います。出した音が虹の形になって客席に向かって伸びていくイメージをはっきりと持っています。そこは、虹でピッタリくる人もいれば、以前お話ししたように紙飛行機の人でもあれば、また全然違うものを想像する方もいらっしゃるでしょう。そこは、それぞれの感性にお任せいたします。

今回佐渡地区リコーダー教育研究会にお招きいただいたことで、よりハッキリと皆さまの反応を知ることができ、私にとってもとても勉強になり、有意義なひと時でした。

佐渡地区リコーダー教育研究会の先生方、関係者の皆さまに、心よりお礼申し上げます。

今回は、今回の息だけを使ったトレーニングを応用して、リコーダーを使って行う練習に入ります。

それでは、また次回お会いしましょう。



<<編集後記>>

嶋見副会長の巻頭言、そして、太田先生ご自身の原稿にもあります、佐渡地区リコーダー教育研究会が、太田先生の原稿を「見える化」し、実技講習会となりました。実際に受講しましたが、会員の方々の表情が変わっていき、納得の声が聞こえ、音が変わっていくのを目の当たりにしました。また、全体講習中に、2重奏の公開レッスンがあり、「進んでいるな。」「勉強になるな。」と感服しました。

根津会長の改革案、県リコは今後どのように実現していくことでしょうか。みなさんはどこについて、改革案をお持ちですか。

◆ 感想・投稿・要望等は、こちらにお願いします。（*^。^*）

mitu3tu@gmail.com / 080-3322-1776 です。

広報主任・副理事長：吉村智宏

／ホームページ：児玉禎明

／さえずり編集：樋熊 三津男

